



成田を元気にする“成田空援隊”



オーディションで真剣な眼差しを送る佐向大監督(右)



市役所で行われた衣装合わせ



ご当地映画で成田をPR ①

「ロケ」を呼び込めっ!

平成22年も終盤に差し掛かった11月下旬、ある空援隊メンバーの携帯電話が鳴った。

「成田がご当地映画の舞台に内定しました」

空援隊では、成田の魅力を発信するため映画ロケ誘致を目指していた。昨年10月には、市などと協力して、映画・ドラマ撮影などの支援窓口「成田ロケーションサービス」を設立したばかり。今回「ご当地映画」という格好のチャンスをものにした。空援隊の吉岡正之さんは「地元民も気付かないよ

うな成田の魅力を再発見できる映画になれば」と期待を寄せる。

作品は、同映画祭の「地域発信型映画」にエントリーされた6作

品の一つ。全国約30カ所の候補地から成田や大阪など6地域が選ばれ、それぞれ30分程度の短編映画が制作される。

初上映となる映画祭は3月18日からスタートするため、スケジュールは、まさに“ケツカッチン”だ。

ロケ地正式決定が発表された12月8日には、監督やプロデューサーなどが成田を訪問。顔合わせするや否や、すぐにロケハン(ロケーションハンティング、ロケ地の下見)が行われた。空援隊の浅野正博さんは「地元を知り尽くしたわたしたちが、監督の作品イメージに合う場所を紹介したい」と意気込んだ。

脚本が固まりつつあった1月20日には、空援隊のバックアップの下、市役所でエキストラのオーディションが行われた。エキストラはボランティアだったにもかかわらず、「成田を盛り上げるために力になりたい」と、外国人を含む多くの市民が参加。オー

ディションを突破した山崎良美さん(大袋)は「空港や成田山以外にも数多くある“成田の魅力”を伝える手助けが、少しでもできれば」と語った。

2月2日には、エキストラの衣装合わせが。どうやら農家の女性が登場するようだ(右上から2番目の写真)。

こうして駆け足で迎えた2月7日早朝、ついにクランクインを迎える。

映画には皆さんおなじみの吉本芸人も出演。次回は、ロケの様子を紹介する予定だ。

沖縄国際映画祭

吉本興業グループがメインスポンサーとなり、笑いや平和をテーマに平成21年から沖縄を会場に毎年3月に開催。世界的にリゾート地で行われる映画祭が成功していることから、沖縄が会場に選ばれた。昨年の第2回には、9日間で約38万人が集まった。



ロケハンで市内のホテル屋上から空港を眺める

編集後記

例年になく寒かった冬も終わりようやく春らしくなってきました。本紙の「伝言板」にも春の行事が目立つように。中でも、三里塚記念公園内の施設公開は以前担当者だけだけに思いもひとしおです。長く埋もれていた防空壕入口の開削時には、戦時中の謎の施設ということが興味を引いたのか、テレビや新聞の取材が殺到。皇室に関係する貴重な“戦争遺跡”であることが判明しました。以来、毎年1回桜の時期に合わせ、貴賓館と防空壕を地元の人たちの協力により一般公開。牧場はなくとも「花と歴史の三里塚」は健在です。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成23年3月15日号 No.1191

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>